

きいちゃんの いきいき支え合い通信

この通信では、地域の「顔が見える」関係の中で、日常生活の困りごとを助け合い、支え合う活動が進むことを願い、生活支援に関する県内の先進事例等を発信していきます。



第14号

令和5年5月
和歌山県
長寿社会課

支え合い事例紹介 新宮市「わがら広角」

新宮市の広角地区では、第2層協議体である「わがら広角」が、地域づくりとして高齢者の見守り活動や、多世代交流・移住者との交流など様々な取組をされています。今回、会長（取材当時）の木下さん、メンバーの田中さん、中野さんに活動内容等についてお話を伺いました。



わがら広角のみなさん

「わがら広角」立ち上げの経緯

広角地区では、地域の現状や課題について協議する場として、令和元年に「広角座談会」を立ち上げ、高齢者の居場所づくりや見守り活動を行ってきました。それらの取組をさらに発展させるため、令和3年に第2層協議体である「わがら広角」を立ち上げることとなりました。

現在は、居場所づくりや見守り活動に加え、健康・娯楽・教養をテーマとして運動会、クリスマス会の開催など様々な取組をされています。

木下さんは「子どもから高齢者まで、活気ある広角をつくり上げていきたいとの想いで取組を進めている。」とおっしゃっていました。

ココがすごい！

地域の居場所「蒟竹笑（こんちくしょう）」

「わがら広角」が取り組む居場所づくりの中心となっているのが「蒟竹笑」です。

「こんにゃくや竹の子を加工・販売しながら、地域の方が気軽に集まってワイワイできる場所を作りたい」との想いで田中さんのご主人の工場を一部改修して開始。こんにゃくの「蒟」、竹の子の「竹」、わらい「笑」を組み合わせて「蒟竹笑」と名付けました。すでに10年以上、笑顔が絶えない場所として愛され、地域になくてはならない居場所となっています。

取材時、田中さんと中野さんは「次はモーニングを始めようかな」と構想を話しており、今後の取組も楽しみです。



中野さん 田中さん 木下さん

「アゲイン広角運動会」

「わがら広角」のメインの取組として令和4年に開催されたのが「アゲイン広角運動会」です。地域の再生を目指して「アゲイン」と称して開催された運動会には、広角地区に移住してきた方、子供と保護者、地域住民など約110名の方が参加し、交流を深めました。

参加した高齢者の方々からは「久しぶりに地域の行事に参加できた。みんな元気やった？」や「広角にこんなにたくさん子供おるんやね」といった声があったとのこと。

また、普段地域の行事に参加できていなかった車椅子利用の高齢者が、「わがら広角」メンバーの支援により参加できたとのこと。会長の木下さんは「運動会を通じて、昔の活気ある広角にしたい。今後も続けていきたい。」と次回開催に意欲的でした。



アゲイン広角運動会の様子



多世代交流の様子

「クリスマス会」

令和4年12月には地域の子供たちを招いてクリスマス会が開催されました。

同日は約100名が参加し、ゲームやわなげなど和気あいあいと楽しめたとのこと。

このクリスマス会は、子供を対象とすることで、保護者との交流も目的のひとつだったので、大成功となりました。



クリスマス会の様子

県からのお知らせ

- 県では「生活支援専門アドバイザー派遣事業」を実施しています。是非ご活用をお願いします。
- 皆様の取り組みを紹介させていただきます。県職員が取材に伺いますので下記までご連絡をお願いします。

連絡先：和歌山県長寿社会課 電話：073-441-2521



新宮市が取り組む、地域のつながりづくり による支え合いの仕組みづくり

市と社協の連携により進む新宮市の取組

新宮市では、市社会福祉協議会の生活支援コーディネーター（SC）と市が連携して生活支援体制整備事業を進めています。今回、市地域保健課の辻本課長、担当の大居さん、第1層SCの大江さんや市社協のみなさんに取組内容を伺いました。



辻本課長

大居さん

新宮市の生活支援体制整備事業

生活支援体制整備事業の主な目的である「支え合いの仕組みづくり」の手法は多くありますが、新宮市では「地域のつながりづくり」を重視した取組を進めています。具体的には、地域住民で構成される第2層協議体を中心となり「地域のつながり」を強化し、日々のつながりや見守り活動等を通して地域の情報を拾い上げ、協議体メンバーや地域全体で困りごとの解決等につなげることが仕組みとなります。

新宮市では、当通信の第4号で紹介した「チームくまのがわ」と、今回取材した「わがら広角」の2つの第2層協議体が立ち上がっており、市としては、このような取組を市全体に広げていきたいと考えているとのこと。

毎月開催する定例会

新宮市では毎月、市関係課職員、社協のSCや地区担当等が集まり定例会を開催し、取組の進め方について協議しています。取材時の定例会では、今年度開催するフォーラムの内容について話し合われた後、「市と社協の連携をさらに深めるためには」について協議がされ、今後は市が行っている様々な事業について情報共有していくこととなりました。最後に辻本課長が「定例会では、きっちりとした成果報告ではなくても、経過を気軽に話していきましょう。」とおっしゃっていたことが印象的であり、大切なことだと感じました。



定例会の様子

第1層と第2層が入れ替わる 新宮市の生活支援コーディネーター

ココがすごい！

新宮市では第1層SC 1名及び第2層SC複数名を市社協が受託しており、市社協では不定期に第1層SCと第2層SC、そして地区担当が入れ替わっています。今回、市社協の植地さん、福島さん、大江さんに第1層SCと第2層SCが入れ替わるメリット等についてお話を伺いました。



植地さん 福島さん 大江さん

植地さんは3代目の第1層SCです。4年前に第1層SCを経験してから現在は地区担当に戻っており、感じたこととしては「第1層で市の全地区を知ってから地区担当をすることで、第1層で知った各地区の取組を担当地区に落とし込めることがメリット。見方が変わる。」とのこと。

4代目第1層SCの福島さんによると「第1層を経験すると視野が広がる。また、第1層SCになると市役所の地域保健課内で勤務することになるため、市職員との関係づくりができるのがとても良い。」とのこと。

一方で、5代目第1層SCの大江さんによると「熊野川地区で8年間第2層SCをしていた。長く続けることで地域の方々と何でも言い合える良い関係になれたので、長く続けることも大事。」といった面もあるそうです。大江さんは続けて「今年度から第1層SCになったので、熊野川地区の取組の良いところを各地区に伝えていきたい。」とおっしゃっていました。

毎年開催するフォーラム

ココがすごい！

新宮市では平成30年度から毎年フォーラムを開催しており、毎回約70～100名の方が参加されています。フォーラムは基調講演及び事例発表で構成されており、テーマや内容については、定例会で話し合っ決定されています。毎年開催する理由として、市の大居さんは、「住民の方に地域での助け合いの必要性について学んでもらい、普段何気なく行っている事こそが、実は大切な事だと気付いていただきたい。様々な取組事例を知っていただくことで、他の地区にも取組が広がってほしい。」とおっしゃっていました。



R4年度フォーラムの様子